

海外へのライセンス供与で得たロイヤルティーを新たな技術開発に投じる好循環を構築

長野県塩尻市の株式会社サイベックコーポレーション(従業員45名、資本金8,000万円)は、時計やプレスで培った技術力をベースに、主に自動車産業向けに超精密部品の金型開発及びプレス加工を手がけている。「2006年元気なモノ作り中小企業300社」に選定されている。

研究開発型企業が海外進出すると十分な開発体制がとれなくなるとの理由から、自ら海外に工場を設立することはせず、グローバル展開をする顧客に対しては、海外のパートナー企業への技術供与を通じて部品を提供している。技術供与先から得たロイヤルティーは「バリューテクノロジー研究所」という同社の研究開発拠点につぎ込み、顧客や装置メーカーと一緒に、新たなテーマの研究開発プロジェクトに取り組んでいる。

技術をノウハウとして保持する中小企業が多い中、同社は常に技術供与先を探しているという。ただし、技術流出防止を図るため、最先端技術は出さず、技術供与先となるパートナー企業は法令遵守という観点から厳選する、という方針を貫いている。例えば、中国へ進出している同社の顧客へ部品を提供する場合、中国の地場企業に技術供与するのではなく、法令遵守が厳しいシンガポールに本社を構える上場企業に技術供与を行い、その企業の中国生産拠点を通じて部品を供給するという戦略をとっている。また、生産終了するまで継続的にロイヤルティーが得られる契約を締結し、海外から継続的に得られるロイヤルティーを新たな技術開発につなげるという、ポジティブな資金循環をつくり出すことに成功している。



超精密冷鍛順送金型プロセス